

指導者に役立つポイントリスト〈分かって動ける〉改訂版

- ★ 授業における必要に応じた工夫についてチェックしよう！
 （◎ 意図的に実施している ○ 実施している △ 実施していない）
 ※ 特に重要なところには「自（自閉症）」「ダ（ダウン症）」と示す。

	項目	ポイント（工夫）の例	※	◎○△
「授業づくり」における支援	物理的支援環境の整備	指導者に注目しやすくなるように、 <u>V字型又は扇形に机を配置している。</u>		
		準備・片付け等が誰でもできるように、教室内の机や椅子、物や教材の <u>位置を固定し、置き場所に印を付けている。</u>	自 ダ	
		説明を聞く際の場所と活動場所などを明確にするために、 <u>椅子等を活動の起点となるように活用させている。</u>		
		一連の活動の際は、 <u>終わり（ゴール）を表す目標物を設置し、確認させている。</u>	自 ダ	
		活動内容や順番を理解しやすくさせるため、児童生徒や指導者の <u>動線が交差せず、直線又はU型になるように設定している。</u>		
	個のニーズに応じた支援の充足	片付け方法を理解させるために、 <u>物を置いたり片付けたりした状態を写真や絵で表示し、その場所に貼り、置かせている。</u>	自 ダ	
		見通しをもって活動できるように、 <u>授業の大きな流れをいつも同じように設定している。</u>	自	
		見通しをもって活動できるように、 <u>授業の流れを写真、絵、文字等で示しためくりカードやスケジュールカードを活用し、児童生徒にめくらせたり、取らせたりしている。</u>	自 ダ	
		見通しをもって活動できるように、 <u>活動の流れを写真、絵、文字等で示した手順表やレシピ等を児童生徒に提示している。</u>	自 ダ	
		活動の量や時間を理解させるために、 <u>内容を示した絵カード等を回数分提示したり、時間が分かるキッチンタイマーや時計等を活用したりしている。</u>	自 ダ	
		活動内容の理解を図るため、 <u>活動の様子又は完成品を示した写真を提示している。</u>	自 ダ	
		課題の内容、量、順番等の理解を図るため、 <u>課題をまとめた入れ物を取りに行かせたり、机上でさらに仕分けしたり、作業の順に並べさせたりしている。</u>		
		見通しをもたせたり、できたことを実感させたりするために、 <u>活動の量をマグネット等で示し、できたときに隣の枠へ移動させることのできるボードを設置している。</u>	自 ダ	
		できた実感を味わわせるために、 <u>操作できる道具を用意したり、使い方の難易度を細かく調整したりしている。</u>		
		自信をもって話すことができるように、 <u>発表の仕方や依頼の仕方等</u> を示した話型を掲示している。	自 ダ	

	人的支援環境 の見直し	指導者が複数の場合に、主担当者と副担当者が連携し、 <u>同時に指示しない</u> ように配慮している。		
		児童生徒が援助を求めたり集中しやすくなったりするように、 <u>活動内容とそれに対応した指導者の立ち位置を固定している。</u>		
豊かな学びの機会を生み出す授業展開	機会の設定 十分な参加	他の児童生徒が活動する際の待つ時間を短くするために、 <u>課題の難易度や量を調整したり、活動を短く区切って、開始と終了を繰り返させたりしている。</u>		
		待つ時間を少なくするために、また、活動内容を把握させるために、 <u>児童生徒に準備・片付けの役割分担を行い、委ねている。</u>		
	豊かな学習機会の設定	話し方や作法を身に付けさせるために、 <u>足型の上に立たせて発表する（話し掛ける）機会を設定している。</u>	自 ダ	
		話し方を身に付けさせるために、 <u>次の活動を他の児童生徒に伝える役割を委ねている。</u>		
		固定した場所で行うことを把握させるために、 <u>立ち位置を示すカードを床に置き、その上に立つ機会を頻繁に取り入れている。</u>	自 ダ	
		順番等の意味を理解させるために、 <u>流し等の前に枠や足型を貼り、並ばせている。</u>	自 ダ	
		挨拶等の方法を身に付けさせるために、 <u>活動終了ごとに報告させたり、物の受け渡し時に「どうぞ」「ありがとう」などを言わせたり、礼をさせたりしている。</u>		
	豊富な人とのやり取り	他の児童生徒が活動する際に、その活動を指示する <u>司会者やスターターの役を委ねている。</u>		
		相手に合わせて行動することを経験させるために、 <u>ペアを組ませ、二人で運んだり、移動したりする場面を設定している。</u>		
		他の児童生徒に気付き、順番等を意識させるために、 <u>次の児童生徒にタッチして交代する場面を設定している。</u>		
		物事のやり方を理解させるために、先に、 <u>モデルとなりそうな児童生徒の活動を見させてから取り組ませている。</u>	ダ	
	多様・多重な評価	適切な行動を身に付けさせるために、 <u>肯定的な評価や即時評価に留意している。</u>		
		めあて（目標）に対する振返りの時間を設定するとともに、想起させやすいように、 <u>児童生徒が作ったもの等を見せながら振り返らせ、学習した内容について評価している。</u>		
		これまで作った物やできたことを想起させたり、取り組んだことを実感させたりさせるために、 <u>振り返りシートにシールを貼らせたり、できたことを書かせたりし、ファイル等で保管させている。</u>		
		作った物やできたことを多様に評価してもらえるよう <u>指導者や他の児童生徒に称賛してもらえる場を設定している。</u>		
		作った物やできたことを多重に評価してもらえるよう <u>保護者や他の大人に称賛してもらえる場を設定している。</u>		